

# PA-303JW 構成 ￥52,000 (￥47,000)

2チャネル、 2チャネル&既設ウーファー

小形サウンドコントローラー

¥12,000



システムインターフェース ¥8,000



メインアンプ ￥24.000



接続コード一式付属

旧PA504シリーズ互換接続キット

メインケーブル

旧504と交換

の場合は不要

¥5,000



¥3,000

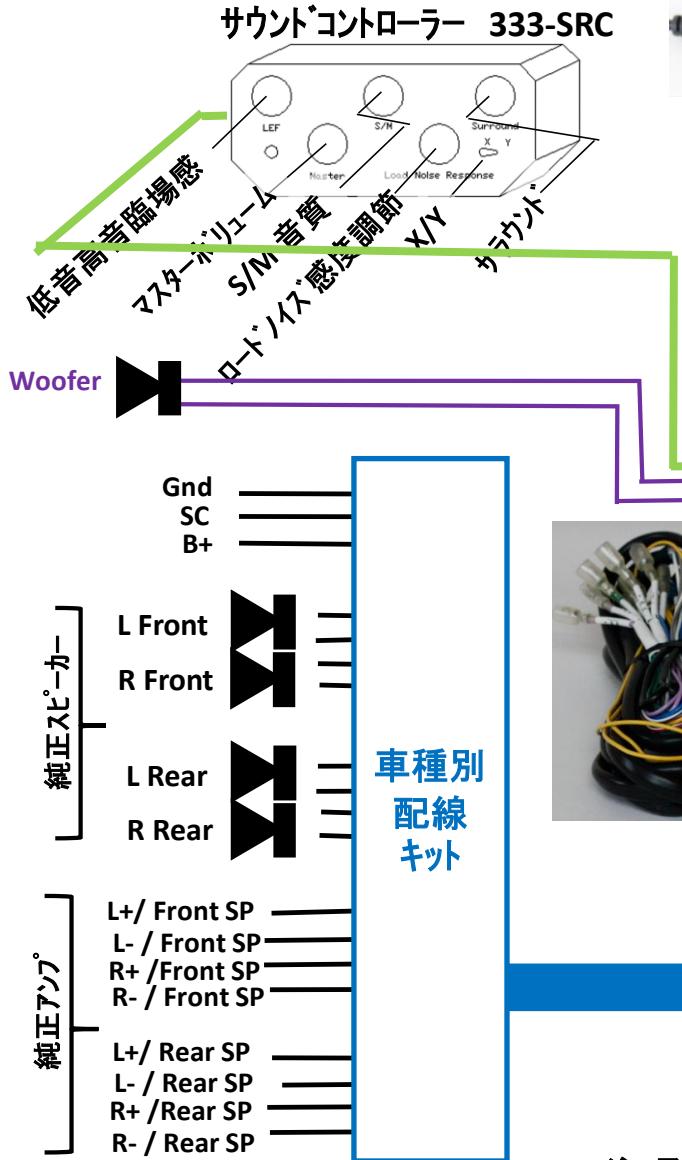


価格は税送抜き (￥) は、旧PA-504シリーズと交換の場合で、メインケーブルが不要な場合

旧PA-504全シリーズ互換 2チャネル & 既設ウーファー PA-303JW 構成と接続



サウンドコントローラー 333-SRC



## システムインターフェース

**333-SV**

卷而

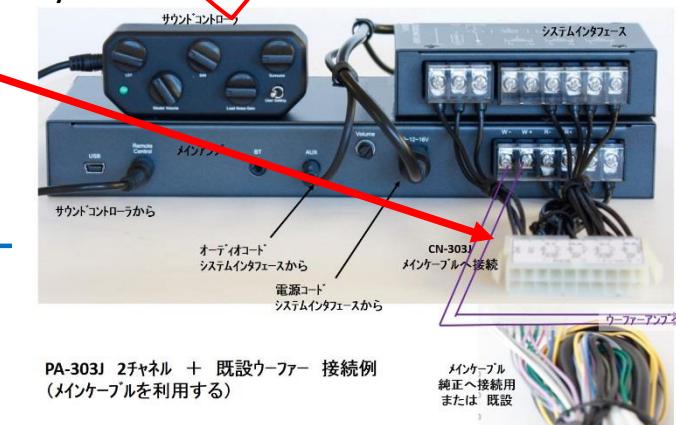
メインアンプ<sup>°</sup> 333-Main Amp

旧PAS04+リーズ・配線に  
コネクタ接続できる配線ギヤト

PA504シリーズ既存品との互換ソケット

PA504シリーズ\*既存品接続プラグ

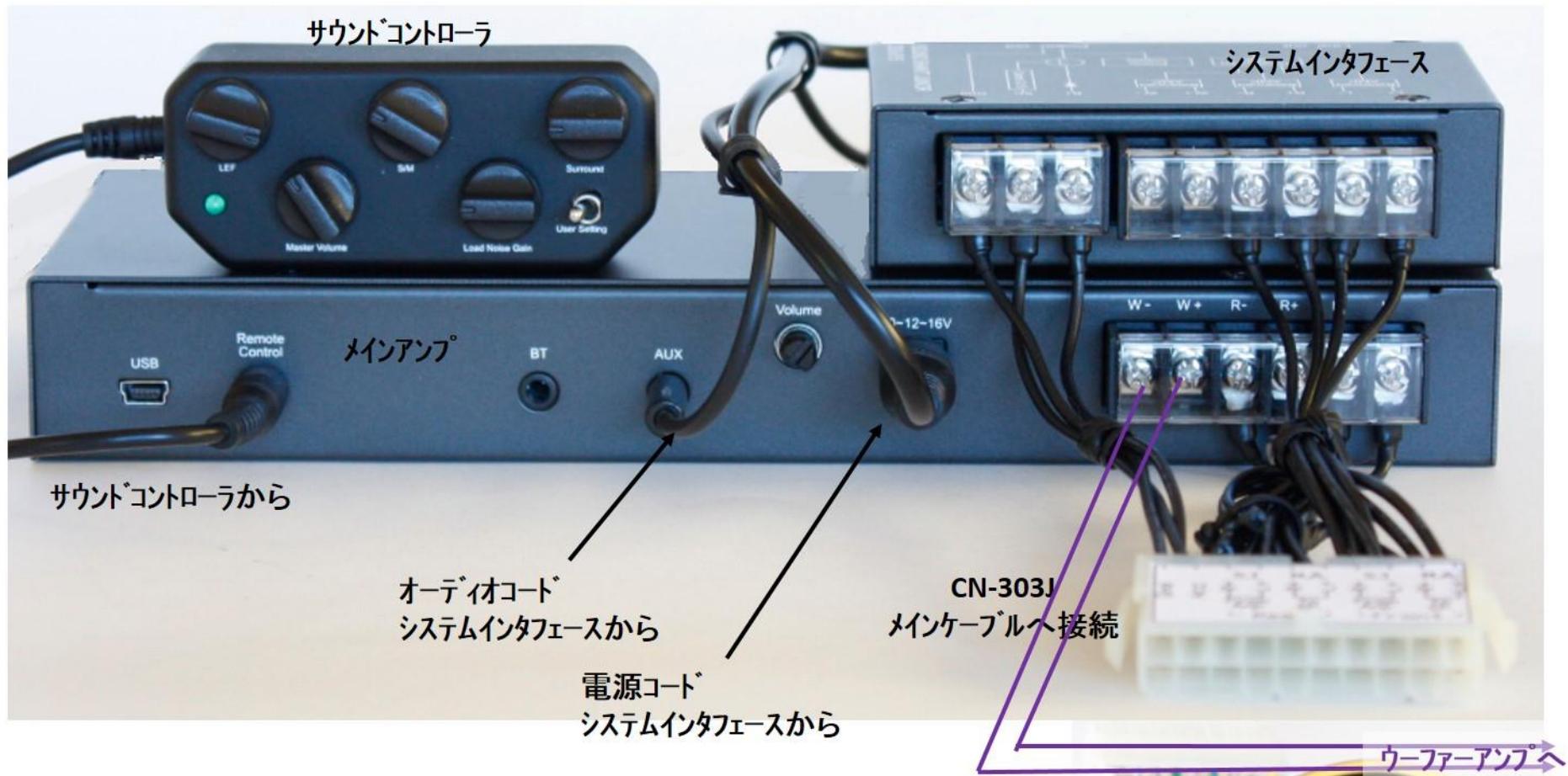
#### 既存のPA504シリーズの配線



PA-303J 2チャネル + 既設ウーファー 接続例  
(メインケーブルを利用する)

メインケーブル  
純正へ接続用  
または 既設

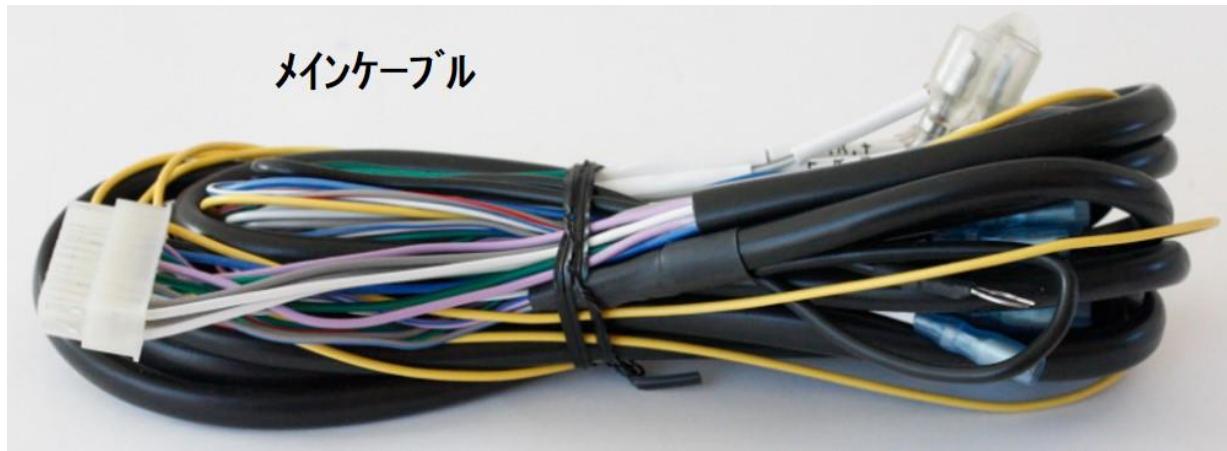
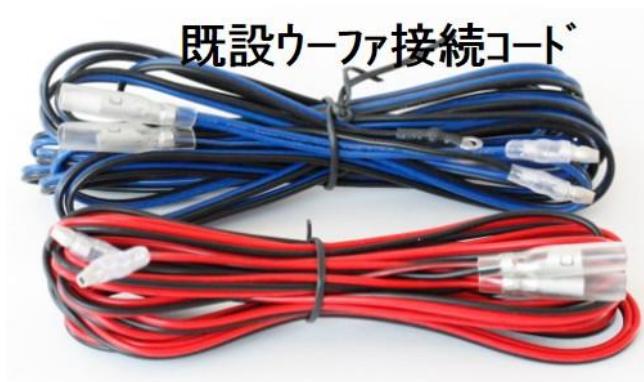
注: 予備の「1チャンネル」はご要望に応じて、ウーファーなどのフロントとは別のスピーカーに割り当てることができます。



PA-303JW 2チャネル + 既設ウーファー 接続例  
(メインケーブルを利用する)

メインケーブル  
純正へ接続用  
または  
既設

# PA-303JW 2チャネル & ウーファー接続コード一覧



## Dサウンドシャキット 使い始めの推奨調節方法について

## 小型サウンドコントローラおすすめ状態

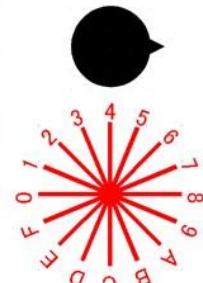


## メインアンプのおすすめ状態

小型サウンドコントローラが接続されると、コントローラ側に制御が移る操作



モード選択



小型サウンドコントローラ	下左ツマミ	音量	小音量(左)で強力な臨場感	仕様 電源: 12V (10V~16V) 消費電流: 暗电流 0.003A/3ch 無信号時 0.23A/3ch 最大出力時平均 3A/3ch  入力信号: AUX 700mVrms/12時 BT 300mVrms  USB充電出力: 5V, 0.1Amax  その他詳細: j-soundscience.com
	下右ツマミ	ロードノイズの検出感度 (走行時効果が大きすぎる場合は左へ)	走行騒音に応じた最適音質音量	
	上左ツマミ	臨場感 (メインアンプで設定された低音と高音の比率で低音高音同時)	音源に近づいた音質	
	上中ツマミ	音楽/アナウンスの音質選択 12時:自動, 左へ手動音楽, 右へ手動アナウンス タイムアライメントの調節は メインアンプのモード選択:9時, モードスイッチを右に倒して、 5秒後から調節し、モードスイッチを左に戻した後、モード選択も元に戻す	音楽だけ聴く場合は左いっぱい	
	上右ツマミ	サラウンド (AMラジオの音楽でもサラウンドで左右に音場を広げる)		
	モード制御	通常左側, 右側ではすべての効果がオフ		
メインアンプ	背面AUX感度	12時 (音割れがする場合は左へ、感度不足の場合は右へ)		16ポジションのモード選択スイッチの割り当て  ポジション   用途  8   セカンドオーディオ標準 0   タイムアライメント調節モード 9   純正音質改善 (セダン用) A   純正音質改善 (ハーフボックス用) B   純正音質改善 (ワンボックス用) 1   5秒後に ウーファー の位相を 反転記憶 F   出荷状態に記憶
	左2番目	低音臨場感成分比率: 通常右いっぱい		
	左3番目	高音臨場感成分比率: 通常12時 → 高音が強い場合は左へ		
	左4番目	左右の音の方向を調整 (AMラジオのアナウンスを再生)	前方に聴こえるよう	
	モード選択	各種音質選択: 右表参照  1. タイムアライメント調節時はスナップスイッチを右に倒し、 5秒後から音楽/アナウンス ツマミがタイムアライメント調節となる。AMラジオのアナウンスで音の方向を調節 調節後、スナップスイッチを左に戻し、モード選択を元の位置に戻す。  2. ウーファーの位相を反転する場合は モード選択を9時から左へ一つ回し、5秒経過後元の位置に戻す。 3. ウーファーの位相を正相とする場合は モード選択を9時から右へ一つ回し、5秒経過後元の位置に戻す。 4. 純正音質改善の場合: 右図参照 5. セカンドオーディオの場合: 右図参照		
	その他	ユーザ要望拡張用		

◆ 緑のランプの音量に同期した点滅は、過大入力のサインです。点滅しなくなるまでヘッドユニットまたはナビ側の音量を絞ってください。

◆ ロードノイズの検出感度は車に合った、最適の状態に調節します。効きすぎるとロードノイズよりも強力な低音の大音量が発生します。

使い始めは控え目(左)から初めて、徐々にアップ(右へ)する方法で、最適状態に合わせ込みます。ツマミの操作は、慣れない間は停止中に行ってください。

◆ アンサンブルとミュージックの自動音量調整は100%完全ではありません。音楽だけのときは左いっぽい、ニュースだけのときは右いっぽい、ラジオ放送では中央でお使いください。

取付配線

純正音質改善モデル 2ch&amp;既設ウーファー PA-303JB

ユニット	設置場所と方法	配線先		注意事項
小型サウンドコントローラ	適切場所、ユーザ希望場所	メインアンプ {Remote Control}		プラグ側、配線に緩みを設ける(テンションをかけない) 緩みがなければ、プラグが斜めになり、振動で雑音発生
システムインターフェース	To Speaker {L+, L-, R+, R-}	メインアンプの隣	トランクコネクター	純正スピーカー側は切断する ヘッドユニットまたはナビ側のフェーダーで、リア音量を絞る
	Gnd, SC, B+		Gnd, Acc, B+	Accがシャットダウン → 約90秒後にメインアンプの電源がオフ
	Power Out		10,12,16V 電源入力	
	Line Out		AUX in	両端プラグ側に緩みを設ける(テンションをかけない) 緩みがなければ、プラグが斜めになり、振動で雑音発生
メインアンプ	座席下	中継コネクター、システムインターフェース		
電源接続コード		メインアンプ {10, 12,, 16V} システムインターフェース {Power Out}		
オーディオ接続コード		メインアンプ AUX in, システムインターフェース Line Out		両端プラグ側に緩みを設ける(テンションをかけない) 緩みがなければ、プラグが斜めになり、振動で雑音発生
中継コネクタ	From Amp {fL+, FL-, FR+, FR-}		システムインターフェース	fL+, FL-, FR+, FR-
	Gnd, Acc, B+		純正システム	Gnd, Acc, B+
	To Speaker {fL+, FL-, FR+, FR-}		メインアンプ	fL+, FL-, FR+, FR-
	その他		無接続	
メインケーブル		中継コネクター、純正システム		
既設ウーファー接続コード		ウーファー [W+, W-], メインアンプ[W+, W-]		メインケーブルとは別傾倒で配線 リアのドアスピーカーをウーファーとして使う方法もある。 詳細はお問い合わせください。

# 設置手順と方法 純正音質改善モデル PA-303J

1A		
2A	サウンド・コントローラ設置	2-1. サウンド・コントローラのコードはとりあえずは垂れ流しにしておく 2-2. ダッシュボードの上または運転席から操作しやすい場所にサウンド・コントローラを取り付ける
3A	そのほかのユニットの設置場所の決定	3-1. メインアンプ： 座席の下 3-2. システムインターフェース： メインアンプの側近
4A		
5A	サウンド・コントロールコードの仕舞い込みとサウンド・コントローラへの接続	5-1. サウンド・コントローラからメインアンプの RCジャック に向けて接続線を延ばす 5-2. 配線経路で、コードが見えないように、[車の構造物と構造物の隙間にコードを埋め込む] [マットの下に仕舞い込む] <b>配線経路で、コードが足元や手元にはみ出ることがないよう、配線</b> 5-3. 配線の仕舞い込みが終われば、サウンド・コントローラの接続プラグをメインアンプの RC 入力 へ、奥までしっかりと差し込む
6A		
7A	中継ソケットのシステムインターフェースとインアンプへの接続	中継ソケット CN306J の矢型端子の； 7-1. { B+, Gnd, Acc } をシステムインターフェースの { B+, Gnd, SC } へ接続 7-2. From Amp の フロントの { L+, L-, R+, R- } を フロント側システムインターフェースの { L+, L-, R+, R- } へ接続 7-3. to Speaker の フロントの { L+, L-, R+, R- } を フロント側メインアンプの { L+, L-, R+, R- } へ接続
8A	システムインターフェースとメインアンプの接続	フロント側システムインターフェース と フロント側メインアンプの； 8-1. Power Out と DC電源入力 を付属の電源コードで接続 8-2. Line Out とAUX入力 を付属のオーディオコードで接続
9A		
10A		

1B	エンジンを起動する前の確認	1B-1. サウンド・コントローラー・コードからの接続線が「メインアンプ」のRCへ接続されていることを確認 1B-2. メインアンプのモード切替スイッチが「4時」(右向き水平方向から右回りへ一段(または2段)(または3段)) 1B-3. メインアンプと小型サウンド・コントローラのスナップスイッチが左側
2B	エンジンを起動して電源系統の確認	2B-1. サウンド・コントローラの緑ランプが数秒間点滅の後、連続点灯 <b>(点灯しない場合はメインアンプの緑ランプの点灯を確認 —&gt; 点灯していればサウンド・コントローラーとメインアンプの接続を再確認)</b> <b>(メインアンプの緑ランプが点灯していない場合 —&gt; 電源コードの接続を確認)</b>
3B		
4B		
5B	純正システムの再生音のダイナミックサウンド・シャキットでの再生を確認	5B-1 純正側の再生音量を最大値の1/3程度とし、ダイナミックサウンド・シャキットから、音量を制御できることを確認
6B	操作ツマミの機能確認	<p>6B-1. 各種ボリュームとスイッチの状態の確認 (以下、時刻表記は時計の短針の位置に相当)</p> <p><b>Master Volume:</b> 音量調節, <b>Bass Tone:</b> 低音調節 (推奨 10時～11時)  <b>* Bass Tone:</b> 低音調節 (推奨 10時～11時)  <b>* Treble tone:</b> 高音調節 (推奨 10時～11時)  <b>* * L/R Balance:</b> アナウンスと音楽の音質調整の自動と手動の兼ね合い          (中央は自動、左ほど強制音楽、右ほど強制アナウンス) (タイムアライメントの設定と共用です)  <b>Surround:</b> 音場の左右の広がり感の調節 (通常 9時～10時) (モノラルの楽曲には効果はありません)  <b>Road Noise Response:</b> ロードノイズ対応音量音質の調節          (推奨 11時) (車体、設置条件、好みによって満足な状態にセット)  <b>(注意: 運転に支障のない範囲で行ってください。特に、慣れていない間はパーキング中に操作)</b>  <b>* * * Mode:</b> 各種設定のための16通りの切り替えスイッチ (通常はポジション3時の位置), <b>スナップスイッチ:</b> X側(左)  <b>タイムアライメント:</b> モノラル信号(ラジオ放送)を再生、ポジションを9時、スナップスイッチをY側(右側)とし、5秒経過後、S/Mのツマミで音の方向調節、スナップスイッチをX側(左)に戻す  <b>* :</b> 小型サウンド・コントローラのLEFは(メインアンプで設定のBass, Trebleの比率で)低音高音同時可変となる  <b>* * :</b> L/Rバランスは常時メインアンプ側で設定 小形サウンド・コントローラ側からの制御はできない  <b>* * * :</b> Modeはロタリースイッチは常時メインアンプ側で設定、小型サウンド・コントローラ側からの制御はできない</p> <p>6B-2. 補足説明:          L/Rの音量バランスはメインアンプ側で調整 (サウンド・コントローラからは調整できません)          サウンド・コントローラを接続した状態で、メインアンプの低音と高音の調整は、低音と高音の比率を決定します          メインアンプで設定された低音と高音の比率のまま、サウンド・コントローラのLEF(臨場感)調整ボリュームで音質を調整します</p>

7B	純正システムの再生音を適正な音量で再生する設定	7B-1. 聴き慣れた楽曲や低中高音でバランスの良い楽曲を再生 —> 適正音量音質、好みの状態に調節 7B-2. 左右の音量バランスの調節：ニュースを再生し、音が正面から聞こえるようL/R Balanceを調節（右ハンドルの場合、11時前後） 7B-3. タイムアライメントの調節：ニュースを再生し、MODE 0, スナップスイッチ右Y側、5秒後S/M Toneを回し、音が正面から聞こえるよう調節、スナップスイッチを左X側に戻す 7B-4. サラウンドの調節：好みの状態に
9b	パーキング中の音質確認	8B-1. ダイナミックサウンド・シャキットのマスター・ボリュームを10時とする 8B-2. ダイナミックサウンド・シャキットの再生音量が適正音量となるよう、純正システムの再生音量を選択 8B-3. その後の再生音量はダイナミックサウンド・シャキットのマスター・ボリュームで調節 （ダイナミックサウンド・シャキットの再生音が【歪む、音割れ】 —> 純正側音量を下げる） （ダイナミックサウンド・シャキットの再生音に【チリチリ、ザザ】とノイズが入る —> 純正側音量を上げる） 8B-4. 純正側で再生したい場合はジュニア・サラウンド・シャキットの音量を絞り、純正側の音量を上げる。
8B	走行中の音量音質確認	9B-1. 停止中、常々聞いている音量にセット 9B-2. 走行中、最も右のロードノイズ・対応音量音質調整ツマミで、 走行速度や路面状態によって大きく変化するロードノイズの中で、最適音量音質に調節（その後は固定） 一度設定しても、慣れの度合いによって、さらに自然にしたい、と感じます。その時は再調節します。 何度か試みて最適のポジションを選びます。 （注意：慣れない間、運転中の音量が気になりますが、運転を最優先にしてください） （注意：楽曲によって、放送は電波の状態によって、音量が変わります。この場合はマスター・ボリュームで調節します）
10B	アナウンスと音楽の音質確認	10B-1. S/M Tone のツマミを12時とし、楽曲とアナウンスとの再生音質を比べます。 12時の位置はアナウンスと音楽の自動判定による自動音質制御です。 音質を自動ではなく手動選択にしたい場合、 12時から左に廻すほど手動での音楽向きの音質になります。 中間は固定の【音楽音質またはアナウンス音質】と自動とを案分します。12時に近いほど自動調節に任せます。 （自動の場合、映画や天気予報など、BGMが入っていると、音楽音質傾向になります。）
11C	各操作ツマミの有効的な使い方	目を向けなくても、指先の感覚で場所と角度を調節できるように。 11C-1. マスター 必要にお応じて都度操作。 11C-2. Bass Tone, Treble Tone 好みの低音感と高音感にバランスよく調節（メインアンプ側で設定、小型サウンドコントローラ側からは双方同時） 11C-3. LEF 楽曲の臨場感を調節（メインアンプ側で設定された低音と高音のバランスのままそのミックスされた臨場感の調節） 11C-4. Surround 好みによって、楽曲によって、左右の広がりを調節。録音状態によても効果が異なります。 モノラル放送の場合は機能しません。 11C-5. Road Nose Response 走行騒音中の快適なリスニングを提供する機能です。 数回の調整で、最適の状態にセットできます。

ご使用に際して

運転中のリスニングで、

前方から音が聞こえること、

ロードノイズに対応して音量音質が最適状態に自動調節されること、

コントローラの操作ツマミが多いこと、

など、これまでのカーオーディオとは音質の感じ方や操作方法が大きく違います。

数回の運転で慣れますが、

使い始めはくろぐれもご注意くださいまして、運転に集中くださいますよう。

いろいろな楽曲でお試しくださいますよう。

何かと、お気づきの点がありましたら、下記までご連絡くだされば、と存じます。

サウンドサイエンス株式会社

郵便番号 770-8041 徳島市上八万町西山436番地

0886-44-2222

[web\\_support@soundscience.co.jp](mailto:web_support@soundscience.co.jp)